



特別企画

映画で英語をまなぼう!

第4回映画英語アカデミー賞決定！ 受賞作をブックに、新たな需要喚起を！

2013年11月号より、今まで何度かにわたってご紹介してきた「映画で英語をまなぼう！」企画。そんな同プロジェクトにおいて、このたび、第4回映画英語アカデミー賞の結果が発表された。是非この機会に受賞作を棚組みし、ショップを新たな学びの場にしてみたいだろうか。

先日、今年で4回目を迎える映画英語アカデミー賞の結果(下記参照)が発表された。この「映画英語アカデミー賞」は、外国語として英語を学ぶ小・中・高・大学生を対象としたもので、他の映画賞のように映画の完成度を問うのではなく、あくまでその作品の教材的な価値を評価し選出される。選考にあたっている「映画英語アカデミー学会」は、英語教育・学習の支援を目的とする産学協同の団体。小・中・高・大学の教師をはじめ、映画分野や出版分野など、幅広い領域の専門家が会員となり、本アワードの運営や関連書籍の出版などを行っている。

今年の受賞作を見渡すと、店頭において

非常に訴求力のあるタイトルが揃っている印象だ。劇場公開時、パッケージリリース時共に大ヒットを記録した『アナと雪の女王』は言うに及ばず、アメリカの自家アカデミー賞とのダブル受賞となった『それでも夜は明ける』、題材ではかなりの認知度の高さを誇るであろう『ダイアナ』、名作『メリー・ポピンズ』の製作背景を描いて話題を呼んだ『ウォルト・ディズニーの約束』など、いずれも作品単体で考えてもブックのある作品。本企画での連動展開によって、さらなる回転促進へと繋がるはずである。加えて、過去の第1回から第3回の受賞作と共に展開することで、より一層アピール力のある棚組みにすることもでき

るだろう。

今回弊誌では、第4回の受賞作を伝えるPOPや過去の受賞作一覧、コメントカードをご用意。データは、KINEJUN INSIDER WEBからダウンロードしていただけるので、この機会に映画英語アカデミー賞をブックにした「映画で英語をまなぼう！」棚を展開してみたいだろうか。すべての受賞タイトルをまとめて展開するもよし、既存の棚組みにコメントカードを付与するもよし。貴店の状況に合わせて、様々に活用していただけたら幸いだ。映画を娯楽としてだけではなく、英語学習に最適な教材と捉えることで、是非新たな需要を喚起していただきたい。

■第4回映画英語アカデミー賞受賞作

小学生部門

『アナと雪の女王』(WDSJ)

誰もが知る大ヒット作でありながら、出てくるセリフは分かりやすいものばかりなので、初級の学習者が自然に英語に親しむことができる。語彙、文法、セリフスピードや明瞭さ、どれもスタンダードで、聴覚教材に最適。

高校生部門

『ダイアナ』(ギャガ/ハピネット)

みんなに愛されたプリンセス・ダイアナが話す、美しい英国英語を堪能できる作品。アメリカ英語で頻繁に起こるリエゾン(語と語の連結)の割合が比較的少ないため、日本人にも聴き取りやすい英語が使われている。

中学生部門

『それでも夜は明ける』(ギャガ)

自家アカデミー賞と合わせてダブル受賞を果たした。元々は北部にいた主人公が、奴隷として南部に連れてこられる過程で、徐々に南部なまりの発音になる様子などから、アメリカの歴史と文化を垣間見ることができる。

大学生部門

『ウォルト・ディズニーの約束』(WDSJ)

「メリー・ポピンズ」の生みの親である豪州育ちの英国人作家が、米国のスタッフと交渉を繰り返すという設定なので、英国人と米国人の気質や発音の違いが浮かび上がる。発音はゆっくりと明瞭で、聴き取り練習には格好の作品。



“映画で英語をまなぼう!”棚のために、POPをご用意!

今回の映画英語アカデミー賞受賞作のものや過去の受賞作のコメントカードのPOPデータをまとめてご提供!

ダウンロードはコチラから! → <http://www.e-vij.jp/>

過去記事もご参照ください!

▶▶ 映画で英語をまなぼう! リターンズ

2014年10月号P.120 ~ 棚組みの展開例やPOPの一覧に加え、コメントカードがあるタイトルのリストも掲載。

▶▶ 映画で英語をまなぼう!

2013年11月号P.112 ~ 映画英語アカデミー学会・曾根田会長へのインタビューや原寸大コメントカードを掲載。